

## シャイな人は自分の顔をどう捉えているか

栗 林 克 匡

目 次  
問 題  
方 法  
結 果  
考 察

### 問 題

シャイネス (shyness) に関する研究は、Zimbardo (1977) の研究を契機に発展を遂げてきている。相川 (1991) は、シャイネスを「特定の社会的状況を越えて個人内に存在し、社会的不安という情動状態と对人的抑制という行動特徴をもつ症候群」と定義し、特性的なシャイネスを測定する尺度を開発した。シャイネスの高い者は、対人場面で情動的覚醒を自覚し、動悸・発汗・赤面などが伴い、本人が本来望んでいるような社会的行動が抑制され、公的自己意識が高く、他者からの否定的評価を懸念し、自己非難的思考を伴う (Cheek & Watson, 1989)。主張性の欠如や意見表明の困難性、他者が存在するところでの意思伝達や思考の困難性などを引き起こす (Zimbardo, Pilkonis, & Norwood, 1975)。対人認知過程において相手からポジティブに認知されていないと思う (Jones & Briggs, 1984)、自己認知のネガティブなバイアスを生ずる (栗林・相川, 1995) といった特徴が挙げられる。

ところで初対面の他者との相互作用においてはまず最初に対人認知が行われる。その際、

最初に目に入る情報は身体的特徴であり、特にその中でも顔の特徴が印象形成に与える影響は大きいと思われる。我々は顔の認知と同時に、目に見えない内面に潜む特徴を推測している。林・津村・大橋 (1977) は、顔写真による相貌の特徴から仮定される性格特性との関連性を検討した。そこでは、シャイネスと関連すると思われる性格特性として「消極的」「内向的な」が評定項目として取り上げられている。結果から、“目のまるい” “あがり目でない” “鼻の穴の小さい” “口の小さい” “唇の厚い” “色の黒い” などといった顔の特徴は、「消極的」「内向的な」性格特性を連想させることが分かった。

では、ある性格特性と相貌認知との間に実際に何らかの関連はあるのだろうか。諸井 (1995) は、孤独感と相貌の特徴の関連について検討している。事前に孤独感を測定してある刺激人物の顔写真176枚を用意した。被験者には刺激人物の写真1枚と相貌評定用紙が渡された。その結果、短期的孤独感を持つ男性の顔は“太い眉”ではなく、女性の顔は“さわやかな顔立ち”ではないなどわずかに関連は見られてはいる。しかし、全体的には刺激人物の孤独感が顔を通して評定者に伝わったとは言い難い。この点について、無表情な顔刺激ではなく、情動表出が伴う顔の時に孤独感が伝わる可能性がある」と諸井は考察している。シャイネスに関連する羞恥感情の顔面表情の特徴として、Buss (1980) は「赤面」「微笑」「視線回避」の3つを挙げている。

---

キーワード：シャイネス、顔の認知、相貌特徴

また菅原(1994)は羞恥の表情の構造を調べるために、眉、目、口、頬の4つの部位について様々なパターンを組み合わせて180通りの表情イラストを用意した。「恥」の表情では“への字に歪んだ口元”が特徴的であった。これは一時的な恥感情を生起したときの表情であるが、特性的にシャイな人はこのような表情を取りやすく、普段の相貌的特徴の自己イメージとして定着している可能性もある。

本研究では、シャイネスの特徴であるネガティブな自己認知を考慮し、諸井(1995)のように他者評定によって性格特性と相貌特徴の関連を見るのではなく、自己評定によって性格特性(シャイネス)と相貌特徴の関連を見ていくことにする。つまり本研究の目的は、シャイな人の相貌の自己認知に関する検討を行うことである。特に、自分の顔(相貌)に関する自己概念と自己評価、および顔における装飾という自己表出(染髪・メガネの着用・化粧・髭)に着目する。シャイな人は自分の顔をネガティブに捉えており、自分の顔に自信がないだろう。また、個性的な表出も控えていると予想される。

## 方 法

被験者：大学生195名(男性130名、女性65名)。平均年齢は18.78歳であった。調査は2004年6月下旬に行われた。

質問紙の構成：

### ①顔の特徴：

自分の顔の特徴として諸井(1995)で使用された相貌特徴36項目5段階のSD尺度を用いた。

### ②顔に対する評価：

自分の顔に対する評価として、自分の顔が好きである、自分の顔は魅力的だと思う、自分の顔に自信がある、自分の表情は豊かだと思う、の4項目を5段階で回答させた。

### ③顔における装飾：

顔における装飾として、A.髪(染髪の有無と整髪時間)、B.メガネの使用状況(メガネ・コンタクト・メガネとコンタクトの併用・なし)、C.化粧(基礎化粧とメイクアップ化粧にかける時間：女性のみ)、D.髭の有無(男性のみ)を尋ねた。

### ④特性シャイネス：

相川(1991)の特性シャイネス16項目5段階尺度を用いた。

## 結 果

### 1. 顔の特徴の因子分析

顔の特徴36項目について主成分バリマックス回転の因子分析を行った。固有値の変動と因子の解釈を考慮して7因子を抽出した(初期固有値1.5以上)。表1に因子分析結果と各項目の平均値を示す。

第Ⅰ因子は“目が丸い”“目が大きい”“二重まぶた”など目に関する特徴から構成されており「魅力的な目」因子とした。

第Ⅱ因子は“鼻が高い”“鼻筋の通った”“ほりが深い”“大人っぽい”などしっかりした顔つきに関する特徴から構成されており「大人っぽい顔」因子とした。

第Ⅲ因子は“ほっそりした”“ほおがこけた”“顔が面長”などから「細面顔」因子とした。

第Ⅳ因子は“鼻が大きい”“唇厚い”“顔が大きい”など顔のパーツの大きさに関する特徴から構成されており「部位の大きい顔」因子とした。

第Ⅴ因子は“えら張り”“顔が色黒”などやや異質な特徴から構成されており「風変わりな部位」因子とした。

第Ⅵ因子は“目尻の切れ込み”“両目の間隔が大きい”“おでこが出ている”など顔を外側へ引き伸ばしたような特徴から構成されており「伸張分散顔」因子とした。

第Ⅶ因子は“髪の毛柔らかい”“髪がさら

表1 顔の特徴の因子分析

	平均値 (S D)	I	II	III	IV	V	VI	VII	h <sup>2</sup>
12 目が丸い	2.95 (1.00)	0.813	0.010	-0.002	-0.107	0.007	0.065	0.053	0.68
16 目が大きい	3.06 (1.08)	0.792	0.119	0.123	-0.138	0.041	0.111	0.123	0.70
32 二重まぶた	3.19 (1.44)	0.650	0.088	-0.081	0.108	-0.057	0.056	0.071	0.46
36 黒目が大きい	3.18 (0.65)	0.523	-0.107	0.096	-0.038	0.085	-0.223	0.004	0.35
13 血色がよい	3.12 (0.88)	0.324	-0.085	-0.184	-0.041	0.166	-0.187	0.179	0.24
3 鼻が高い	2.81 (0.90)	-0.065	0.738	0.081	0.085	-0.171	-0.049	-0.043	0.60
15 鼻筋通った	2.84 (0.86)	0.083	0.711	0.240	-0.002	-0.002	0.087	-0.050	0.58
21 ほりが深い	2.65 (0.88)	0.301	0.597	0.184	-0.055	0.276	0.204	0.085	0.61
29 大人っぽい	2.87 (0.98)	0.020	0.536	0.078	0.155	0.244	-0.142	0.060	0.40
25 顔が整っている	2.76 (0.85)	0.073	0.402	0.112	-0.266	-0.127	0.123	0.144	0.30
26 眉が太い	3.25 (0.88)	0.276	0.396	-0.010	0.247	-0.287	0.162	-0.161	0.43
35 口元ゆるみ	3.08 (0.64)	0.061	-0.347	0.197	0.194	0.002	0.063	-0.053	0.21
11 鼻先丸い	3.29 (1.01)	0.301	-0.467	-0.079	0.244	-0.038	0.025	0.023	0.38
17 ほっそりした	2.84 (1.12)	-0.103	0.186	0.821	-0.132	-0.046	-0.039	-0.004	0.74
23 ほおごけた	2.65 (0.91)	-0.059	0.138	0.740	-0.108	0.159	0.210	-0.106	0.66
5 顔が面長	3.05 (1.02)	0.073	0.120	0.568	0.315	-0.021	-0.270	0.053	0.52
14 あごとがり	2.68 (0.94)	0.307	0.058	0.563	0.070	0.043	0.301	-0.062	0.52
19 鼻が大きい	3.13 (0.78)	-0.048	0.081	0.016	0.722	-0.162	-0.066	-0.014	0.56
27 唇厚い	3.14 (0.88)	0.054	-0.127	-0.205	0.537	0.233	0.108	-0.011	0.42
1 顔が大きい	3.21 (0.87)	0.054	0.043	-0.417	0.418	0.180	-0.132	-0.070	0.41
31 口が小さい	2.95 (0.87)	0.031	-0.128	0.017	-0.480	-0.346	0.152	-0.036	0.39
7 鼻の穴小	2.90 (0.74)	0.112	0.217	-0.131	-0.562	-0.021	-0.065	0.072	0.40
10 えら張り	2.16 (1.06)	-0.026	-0.021	-0.108	0.086	0.599	0.252	-0.140	0.46
9 顔が色黒	2.70 (1.10)	0.267	0.126	0.036	0.101	0.594	-0.137	-0.087	0.48
33 肌がきれい	2.62 (0.84)	0.197	0.086	-0.102	-0.082	-0.330	0.306	-0.073	0.27
34 眉が濃い	3.39 (0.89)	0.393	0.199	-0.020	0.221	-0.428	0.135	-0.238	0.50
24 目尻切れ込み	2.88 (0.67)	-0.168	0.053	0.248	-0.125	-0.048	0.537	0.047	0.40
28 両目の間隔大	2.98 (0.49)	0.061	0.109	-0.063	0.208	0.007	0.477	-0.059	0.29
8 おでこ出ている	2.56 (0.82)	-0.079	-0.031	0.177	0.259	0.403	0.459	0.078	0.49
6 ほくろ目立つ	2.48 (1.20)	0.078	-0.191	0.079	-0.125	-0.058	0.410	0.024	0.24
20 目がつり上がり	2.93 (0.69)	-0.357	0.049	0.022	-0.146	0.105	0.398	-0.015	0.32
18 髪の毛柔	2.91 (1.33)	0.054	-0.064	-0.089	-0.130	-0.001	-0.102	0.768	0.63
22 髪さらさら	3.00 (1.10)	0.199	0.083	-0.016	-0.026	-0.269	-0.053	0.726	0.65
4 おでこ広い	3.29 (0.99)	0.025	-0.045	-0.100	0.367	0.004	0.339	0.485	0.50
30 眉が八の字	2.73 (0.72)	-0.282	0.081	-0.007	0.146	0.125	0.120	0.297	0.23
2 日本人らしい	3.61 (0.86)	-0.098	-0.122	-0.231	0.170	-0.271	-0.021	-0.384	0.33
固有値		3.07	2.70	2.52	2.41	1.91	1.88	1.84	
説明率(%)		8.53	7.50	7.00	6.69	5.31	5.22	5.11	

さら”など髪の毛に関する特徴から構成されており「しなやかな髪」因子とした。

## 2. 顔の特徴とシャイネスの関係

顔の特徴7因子の各因子得点を算出し、シャイネスとの相関係数を算出した(表2参照)。被験者全体および女性のみを対象とした分析では有意な相関は得られなかったが、男性の第V因子「風変わりな部位」に有意な負の相関が見られた。シャイでない男性ほど自分の顔には風変わりな部位があると認知しやすいようである。

顔の特徴とシャイネスの関連を細かく検討するために、36項目について個別に相関を算出した。その結果、被験者全体では“大人っぽい”(r=-.14, p<.05)、“目尻の切れ込み”(r=-.13, p<.10)で負の相関、“鼻が大きい”(r=.12, p<.10)で正の相関がみられた。男

性では、“口元ゆるみ”(r=.23, p<.01)で正の相関、“目がつり上がり”(r=-.18, p<.05)で負の相関がみられた。女性では、“鼻が大きい”(r=.32, p<.05)で正の相関、“眉が太い”(r=-.32, p<.01)、“両目の間隔が大きい”(r=-.24, p<.10)、“目尻が切れ込んでいる”(r=-.23, p<.10)、“大人っぽい”(r=-.21, p<.10)で負の相関がみられた。

表2 顔の特徴因子とシャイネスの相関

	全体	男性	女性
I 「魅力的な目」	-.06	-.05	-.09
II 「大人っぽい顔」	-.10	-.10	-.11
III 「細面顔」	.03	.10	-.05
IV 「部位の大きい顔」	.04	.08	.00
V 「風変わりな部位」	-.05	-.19*	.08
VI 「伸張分散顔」	-.09	-.01	-.19
VII 「しなやかな髪」	-.05	-.10	.03

\*p<.05

3. 顔に対する評価とシャイネスの関係

顔に対する評価 4 項目についてシャイネスとの相関を算出した(表 3 参照)。被験者全体では、シャイな人ほど“自分の顔が好き”ではなく( $r = -.12, p < .10$ )、“表情が豊か”とは思っていない( $r = -.35, p < .001$ )。男性でも同様にシャイな人ほど“自分の顔が好き”ではなく( $r = -.18, p < .05$ )、“表情が豊か”とは思っていない( $r = -.31, p < .001$ )。女性ではシャイな人ほど“表情が豊か”とは思っておらず( $r = -.43, p < .001$ )、“魅力的”ではなく( $r = -.24, p < .10$ )、“自信”がない( $r = -.23, p < .10$ )。

表 3 顔の評価とシャイネスの相関

	全体	男性	女性
自分の顔が好き	-.12+	-.18*	-.04
魅力的	-.10	-.02	-.24+
自信がある	-.07	.04	-.23+
表情豊か	-.35***	-.31***	-.43***

+p<.10 \*p<.05 \*\*\*p<.001

4. 顔における装飾とシャイネスの関係

①髪の色：シャイネスの程度と染髪状況の関連を検討するためにシャイネス群(低・中・高)×染髪の有無のカイ二乗検定を行った(表 4 参照)。なお以下の分析ではシャイネスの群分けは、44点以下を低群、45~52点を中群、53点以上を高群とした。その結果、

表 4 染髪状況

	染髪なし	染髪あり	計
低シャイ	22(36.07)	39(63.93)	61
中シャイ	30(44.12)	38(55.88)	68
高シャイ	42(63.64)	24(36.36)	66

$\chi^2(2) = 10.5, p < .01$

表 5 メガネの使用状況

	メガネ	コンタクト	併用	なし	計
低シャイ	10(16.67)	17(28.33)	4(6.67)	29(48.33)	60
中シャイ	16(23.88)	11(16.42)	10(14.93)	30(44.78)	67
高シャイ	23(36.51)	12(19.05)	8(12.70)	20(31.75)	63

$\chi^2(6) = 11.41, p < .10$

シャイな人は染髪していない割合が高かった( $\chi^2(2) = 10.5, p < .01$ )。

また整髪にかかる時間(秒：平方根変換)について、シャイネス群別に 1 要因の分散分析を行ったところ、有意差は見られなかった(表 6 参照)。

②メガネ：シャイネスの程度とメガネ使用状況の関連を検討するためにシャイネス群(低・中・高)×メガネ使用状況(メガネ・コンタクト・併用・なし)のカイ二乗検定を行った(表 5 参照)。その結果、高シャイではメガネ使用者が多いのに対して、低シャイではメガネ使用が少なかった( $\chi^2(6) = 11.41, p < .10$ )。

③化粧：女性の被験者について、基礎化粧とメイクアップ化粧にかかる時間(秒：平方根変換)について、シャイネス群を要因とする 1 要因の分散分析を行った。シャイネス群別の平均値は表 6 の通りであった。群間に有意差は見られなかった。

④髭：男性に被験者について、シャイネスの程度と髭の有無の関連を検討するためにシャ

表 6 シャイネス群別の整髪及び化粧時間の平均値

	低シャイ	中シャイ	高シャイ
整髪時間	16.34 (9.24)	14.81 (9.49)	17.87 (9.65)
基礎化粧時間	17.74 (9.08)	16.59 (6.90)	14.06 (7.80)
メイクアップ化粧時間	25.09 (13.55)	23.97 (10.22)	20.05 (14.23)

※値は平方根変換した

イネス群（低・中・高）×髭の有無のカイ二乗検定を行った（表7参照）。シャイネスの程度による髭の有無に偏りは見られなかった（ $\chi^2(2) = 0.52, n.s.$ ）。

表7 髭の状況（男性のみ）

	髭なし	髭あり	計
低シャイ	27(81.82)	6(18.18)	33
中シャイ	35(76.09)	11(23.91)	46
高シャイ	24(75.00)	8(25.00)	32

$\chi^2(2) = 0.52, n.s.$

## 考 察

本研究は、シャイネスと顔の特徴の自己認知および自己評価などとの関連について検討した。顔の特徴との関連では、男性においてはシャイネスが低いほど、えら張りや色黒など「風変わりな部位」と関連しており、個性的な特徴を有した顔をしている。また顔の部位を個別に見ると、シャイな男性は口元がゆるみ、目がつり上がっていないという普段はやや“緊張感に欠けた”相貌である。これはBuss（1980）の指摘する羞恥の特徴である「微笑」のような表情を連想させなくもない。シャイな女性は、鼻が大きく、眉が細く、両目の間隔が狭く、目尻が切れ込んでおらず、子どもっぽいという“大人として整った顔ではない”相貌である。ただ以上に挙げた関連性も全体からみればわずかなものであり、顔の特徴がシャイネスと関連すると積極的には言い難い。

興味深いことは、シャイネスによる顔の特徴には明確な関連がほとんどないにも関わらず、シャイネスの高い人は自分の顔が嫌いで、特に女性では、自分の顔は魅力的でなく自信がないと思っていることである。

Schlenker & Leary（1982）は、シャイネスを自己呈示の観点から説明している。つまりシャイネスは、自己に関するある印象を与え

ようとする動機づけは高いが、その印象を相手にうまく与えることができないと思うと生ずると考えた。顔は他者に与える印象に大きな影響力を持っているが、シャイな人は自分の顔による自己呈示効率を低く評価をしていることになる。相貌（の自己認知）自体にはシャイネスによる違いはないのに、自分の“顔に対する評価”が低いのは、シャイな人の表情が乏しいことが原因の1つとなっていると考えられる。シャイな人の顔における表現力（自己呈示）が欠けていることは、顔における装飾といった表出行動でもいくつか確認できた。シャイな人は、髪を染めて自分の色を表現するといったことはせず、メガネを好み素顔を現そうとしない傾向にある。個性というか自分らしさを積極的に表そうとしない。シャイな人の顔に関する特徴は、その相貌に現れるのではなく、表情や装飾において積極的に個性をアピールしようとしないうといった抑制的な表出行動に強く現れているといえよう。

本研究の問題として、以下のことが挙げられる。まず第1に、顔の特徴の項目として、表情に関するものがないことである。例えば、Buss（1980）が指摘した羞恥の表情の特徴である「赤面」「微笑」「視線回避」について加えておくとよかったかもしれない。第2に、今回はシャイな人の顔の自己認知のみ注目しており、他者からみた客観的な相貌の認知と本人の主観的な相貌の認知のズレは検討されていない。第3に、本研究ではシャイネスが相貌の自己認知にネガティブな影響を与えている可能性を想定していたが、逆にネガティブな相貌特徴がシャイネスを生み出している可能性もありうる。ネガティブなボディ・イメージが自尊心を低下させたり醜形恐怖をもたらしたりして、他者に対して抑制的（シャイ）になるのである。そのため自己像の改善、例えば化粧や整形手術などで自己のイメージをポジティブにすれば、他者に対して積極的

に振る舞えるようになると考えられる。今後はこれらの点を考慮した研究が望まれる。

[引用文献]

- 相川充 1991 特性シャイネス尺度の作成および信頼性と妥当性の検討に関する研究 心理学研究, **62** (3), 149-155.
- Buss, A. H. *Self-Consciousness and social anxiety*. San Francisco : Freeman.
- Cheek, J. M. & Watson, A. K. 1989 The definition of shyness : psychological imperialism or construct validity? *Journal of Social Behavior and Personality*, **4**, 85-95.
- 林文俊・津村俊充・大橋正夫 1977 顔写真による相貌特徴と性格特性の関連構造の分析 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), **24**, 35-42.
- Jones, W. H. & Briggs, S. R. 1984 The self-other discrepancy in social shyness. In Schwarzer, R. (Ed.) *The self in anxiety, stress and depression*. North-Holland Elsevier Science Publishers.
- 栗林克匡・相川充 1995 シャイネスが対人認知に及ぼす効果 実験社会心理学研究, **35**, 49-56.
- 諸井克英 1995 孤独な顔 : 暗黙の性格理論によるアプローチ 人文論集 (静岡大学人文学部), **46**, 51-79.
- Schlenker, B. R. & Leary, M. R. 1982 Social anxiety and self-presentation : a conceptualization and model. *Psychological Bulletin*, **92**, 641-669.
- 菅原健介 1994 羞恥感情の構造に関する研究 日本心理学会第58回大会発表論文集, 103.
- Zimbardo, P. G. 1977 *Shyness : What it is, what to do about it*. Massachusetts : Addison-Wesley. (木村駿・小川和彦 (訳) 1982 ジンバルド, P. G. シャイネス 頸草書房)
- Zimbardo, P. G., Pilkonis, P. A., & Norwood, R. M. 1975 The social disease called shyness. *Psychology Today*, **8**, 68-72.

[Abstract]

## How do Shy People Describe their Face?

Yoshimasa KURIBAYASHI

This study examines the relationship between shyness and physiognomic features. The participants of 195 undergraduates (130 males, 65 females) were asked about their physiognomic features, evaluations of their face, attendance to appearance (hair treatment, use of glasses, time of makeup, beard), and the degree of shyness. The results were as follows. Shyness was related to few physiognomic features; however, shy people evaluated their face negatively. Shy people bleach their hair less and wear glasses more than not-shy people. The facial features of shy people did not emerge in their physiognomy but inhibited expressive behaviour.

---

Key words : Shyness, Face, Physiognomic Features

